

令和8年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより

このまちに生き、共に輝く子



四季の森



7月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>

地球は未来の子どもたちからの借りもの

学校長 森脇 信行



6月末の校庭のクリの実

梅雨の晴れ間、プールから子どもたちの歓声が聞こえてきます。子どもたちにとって一般的に梅雨の雨は外で遊ぶことができなくなり嫌がられます。私も通勤時の雨は憂鬱な気持ちになりますが、この時期に雨が降らないと農業や夏の水不足などに影響が出てしまいます。今年も、線状降水帯の発生により、短期間に雨が集中することが懸念されています。また、近年、極端な高温や大雨の頻度が増加する

傾向にあるそうです。このような異常気象の背景には地球温暖化が関わっているとみられています。

地球温暖化を考えると、私はアメリカの先住民の有名な「地球は先祖から譲り受けたのではない。子孫から借りているものだ。」という言葉思い出します。日本では土地をご先祖様から受け継いだものという考え方が一般的です。ご先祖様から受けとったバトンを子どもたちに渡すという考えも好きですが、この地球を子孫（未来の子どもたち）から借りていると考えると、子どもに関わる仕事をしている私は身が引き締まる思いがします。「借りたもの」は大切に使い、時期が来たらきれいな形で返却しなければなりません。便利で自由に「たくさん作ってたくさん使う」このような生活を続けていると未来の子どもたちにどのような地球を返却することになるのでしょうか。

今年度の国際平和スピーチコンテストのテーマは昨年に引き続きSDGsでした。コンテストに先立って、先日6年生全員が17のゴールが設定された「持続可能な開発目標」について、自分の考えをスピーチしました。そして、学級の代表者4名のスピーチを5・6年生が聴きSDGsについて自分の考えを膨らませる取り組みを行いました。

（区の国際平和スピーチコンテストは6年生の小林実莉さんが四季の森小学校の代表として発表しました。）

しかし、子どもたちの取り組みとは逆に、正門前のバス通りから毎日のように空き缶などのごみが学校敷地内に投げ込まれています。未来の子どもたちから借りた地球をどのような形で返すのか、自分たちと未来の子どものために、まずは大人が子どもたちに手本を見せたいものです。